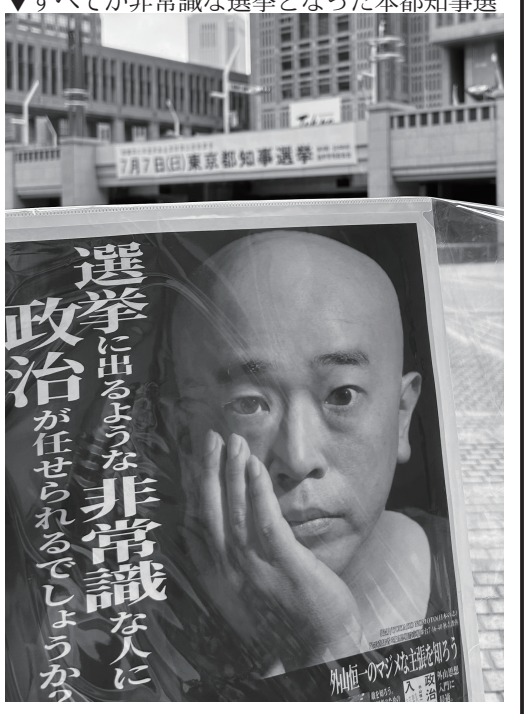
波乱の東京都知事選・終結
選挙制度反対の立場からみた都知事選

▼すべてが非常識な選挙となった本都知事選



■注目すべきは五位以下の躍進

七月七日に東京都知事選の投開票が行われた。立候補者数は大差をつけて過去最大の五六人。その話題性に伴い、投票率も六〇・六二％と近年最高を記録した。巷では石丸氏が蓮舫氏を抜いて二位に浮上したことが話題となっている。しかしこうした情報は、投票日数日前にはすでに出回っており、驚くには値しないだろう。

いうまでもなく、私たち少数派にとっては、選挙など元々なにも関係がない。目指すべきは投票率０％だ。しかしながら、選挙結果に全く見るべきところがないかといわれれば、そうでもない。私たちに関係がないのは、決定プロセスとしての都知事選であって、統計情報としての都知事選の結果は、むしろ貴重な情報にもなる。

主要候補の順位はどうだっていい。言ってよければ、初めから小池氏が再選することは分かりきっていた。もし仮にそれが蓮舫氏や石丸氏になっていようが、あるいは二位と三位の順位が変わろうが、大したは、真っ当な選挙運動と、妻・りな氏の演説で話題となった安野貴博氏。続いて六位（121715票）反ワクチン系候補者で、かなり早い段階でほとんどのポスター掲示板にポスターを掲示していた内海聡氏。そして、七位（110196票）SNSで注目されるひまそらあかね氏。

これらの候補者は、いずれも主要メディアがほとんど取り上げていないにもかかわらず、十万票超えの票を集める結果となった。過去、いわゆる泡沫候補が五万票以上を集めた例は極めて少なく、異例の事態が起こっていると見ていい。

意味はなかっただろう。見るべきは、むしろ五位以下数名の候補者である。一定の勢力を持ちながら、既存の枠からは外れた勢力。どんな集団で、どれだけの力を持つのか。

主要四候補以下は次のように続く。五位（154638票）に

■うつみさとる 候補 いったい何者か？

安野氏とひまそら氏については、X上ですでに十分言及されているため割愛し、ここでは内海氏について軽く触れておこう。というのも、同氏は後述するポスター掲示作業で最も目についた候補者だからだ。外山恒一氏は六月二一日初日の段階で、「うつみさとる」という謎の候補が、おそらくボランティアスタッフのみの力で、ほとんどのポスター掲示板への掲示を完了していたことに言及している。一体何者だろうか。

内海聡氏は医師でありながら、反ワクチン活動を行ってきた人物だ。自称「キチガイ医」。現代医療の九割は対症療法にすぎず、無駄であるとの主張を繰り広げる。所属していた六つの学会からはすべて脱会する過激さだ。そのなかには「日本東洋医学会」も含まれる。同氏によれば、コロナワクチン、HPVワクチンなどをはじめとするワクチンは全て無意味で、かえって病気を増やすとし、また、精神病などは初めから存在しない。

同氏は、五月に行われた日比谷パレードデモでも街頭演説を行っていた（デモについては『陰進』第〇〇三号参照）。私たちのSNS空間にも、またマスメディアにも姿を見せない候補者が、着々と十二万票もの支持を集めているのである。

▼ほとんどの掲示板で見た内海氏のポスター

アキノリ将軍未満氏 ポスター掲示枠 訴訟へ

◀会見では自らの思想も宣伝したアキノリ氏

七月二日に都庁で行われた会見で、都知事候補のアキノリ将軍未満氏が都に対し、損害賠償請求を行うことを表明した。前述の通り、今回の都知事選では過去最多となる五六人が立候補があった。しかしこれに対して、都選挙管理委員会は四八人分のポスター掲示枠しか用意しておらず、四九～五六番目の候補者には、クリアファイルを用いて枠の下部や左右に掲示することが指示された。

いうまでもなく、こうした選管の対応は民主的権利の平等を著しく侵害するものである。とりわけ泡沫候補にとっては、ポスター掲示板は重要な意見発信の機会だったはずだ。四九番目以降の立候補者だけがその手間を不当に負わされ、その上視認性も低い位置に追いやられるというのは、言語道断だろう。

このような意見は、真っ当に選挙活動を行おうとしていた候補者からも出ている。実際に私たちが枠外で最も多く見かけたポスターの掲示者である小林弘氏は、クリアファイル形式の手間の多さから、用意していた二〇〇枚のポスターを貼ることができなかったと主張する。また同氏のいくつかのポスターは、風雨に晒され、剥がれた状況にあったことも確認されている。

小林弘氏の得票は7408票で十三位。ポスター掲示板が枠外だったことによるイメージの低下がなければ、十位は取れていたとしても不思議ではない。同氏は七月三日に、都と小池都知事、選管に対し、選挙費用2000万円の賠償を求めた。

一方、七月四日に東京地裁に訴状を送付したアキノリ氏の主張は異なる。同氏は、選挙制度そのもののあり方について問題提起を行う目的で、都に対し、一円の訴訟を行なった。選管は限られた資源のなかで最大限対応を行なったため、それを責めるつもりはないとしている。都選挙管理委員会は、立候補者よりも少ない人数で運用されていたとのことだ。

たしかに私たち反民主主義者は、民主主義を守るということに何の価値も感じていない。しかしながら、そうした民主主義の欠陥を指摘する上では、やはり本件は重要な問題となる。それを他の候補に先駆け、最速で表明したアキノリ将軍未満氏の功績は大きい。次面の記事で、具体的にどのようなポスター掲示板の問題があったのか、詳しく追っていく。

■文藝【短歌】

中核も極右の奴も主義オナニーだった　ならあたしは陰核派な

左鞍＿躁（@sakuramisao_sm）

陰進

週刊

2024年 7月 第2週

発行元
最前線
anarcho.clitorist@gmail.com
担当・記事　仁科　夏瑚

保存用　紙版
1ヶ月　500円

月毎に郵送いたします。
詳細は上記連絡先まで

「自立」と「協力」のもとに集え

クリトリスはアナーキストである！

カトリーヌ・マラブー
『抹消された快楽　クリトリスと思考』より

徒党
陰核派